

Cross-cultural Engineering Project (CEP)の実施(大宮)

実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2024年12月10日 ～2024年12月20日	日本	キングモンクット 工科大学トンブリ校 スラナリー工科大学 ハノイ工科大学 スラバヤ工科大学 泰日工業大学 タマサート大学 タシュケント 情報技術大学 ブラジル連邦大学ABC マレーシア国民大学 カセサート大学 ミーニョ大学	電子情報システム学科、 機械制御システム学科、 環境システム学科 学部3～4年生、 修士1～2年生、 博士1～2年生	(芝浦工業大学) 学生52名、学生バイト5名、 教員5名 (キングモンクット工科大学 トンブリ校) 学生10名、教員1名 (スラナリー工科大学) 学生5名 (ハノイ工科大学) 学生8名 (スラバヤ工科大学) 学生3名 (泰日工業大学) 学生3名 (タマサート大学) 学生3名 (タシュケント情報技術大 学) 学生2名 (ブラジル連邦大学ABC) 学生2名 (マレーシア国民大学) 学生3名 (カセサート大学) 学生1名 (ミーニョ大学) 教員1名	長谷川 浩志 (機械制御システム学科)、 市川 学 (環境システム学科)、 間野 一則 (電子情報システム学科)、 村上 嘉代子 (電気電子工学課程先端電 子工学コース)、 持永 大 (環境システム学科)



オープニングセレモニー

システム理工学部、大学院理工学研究科システム理工学専攻では、システム思考の工学(システム工学)教育プログラムを学部・大学院専攻のコア科目として実施(社会人基礎力を育成する授業30選に選定)している。この教育プログラムの集大成となるプロジェクトがCross-cultural Engineering Project (CEP)である。CEPは、日本、東南アジア、ヨーロッパの三地域で実施されている。大宮キャンパスで開催されるCEPは、多国籍・多分野の学生が産学地域連携課題を取り扱う。東南アジア地域はタイのバンコクで実施し、グローバル課題を対象にする。ヨーロッパ地域は、ポルトガルで実施し、イノベーション創出を課題としている。これら3地域のどれかを履修することで単位取得ができる。本年度は、12月10日から20日まで大宮キャンパスと那須高原で実施され、世界8カ国・地域から集まった90人が16チームに分かれて、分野混成、多国籍チームによるプロジェクトを実施した。プロジェクトチームは、企業の課題解決チームが11チーム、地域自治体の課題解決チームが5チームで構成された。また、プログラムでは、12月14日から16日までの2泊3日で、栃木県那須町にて「那須を巡ってNasuGPTを作ろう」をテーマとしたワーケーションを実施した。学生たちは、那須地区の施設を訪問して体験を行い、発見した地域の魅力をChatGPTによりご当地向けにカスタマイズ、NasuGPTを作成、地域のステークホルダーに対して提案を行った。

全体プロジェクトのアワードは、タイのコングロマリット企業、ブーンロード・トレーディング(飲料関連はSingha Corporationを設立、Singha, Leoなどのビールや飲料を展開)のプロジェクトチームであった。初の海外からの課題提供であり、素晴らしい提案であった。

以上、各プロジェクトチームの提案内容は、魅力的なものが多く好評を博し、参加学生たちにとっては、有意義な経験と多国籍・多文化交流ができたものと考えられる。



プロジェクト活動



那須ワーケーションのプロジェクト活動



集合写真